

市民の皆さんと市長との懇談会（龍ヶ崎市文化会館）
～将来のまちづくりについて～

日時	平成 28 年 6 月 12 日（日）17 時 00 分～19 時 00 分	
場所	龍ヶ崎市文化会館 小ホール	
出席者	市民	14 人
	市	中山市長 川村副市長 松尾総合政策部長 岡田都市環境部長 企画課：宮川課長，大貫課長補佐，関ヶ原主査，染谷主幹 都市計画課：清宮課長，岡野課長補佐，廣津係長，沼崎係長
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の皆さんと市長との懇談会～将来のまちづくりについて～ 次第 ・（仮称）第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（素案）の概要について ・新都市計画マスタープランの策定に向けた取組について ・常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想（素案）の概要について ・アンケート用紙 	

【懇談会内容】

1. 開会，市長あいさつ

司会より開会のあいさつ，続いて，中山市長よりあいさつ。

2. 市からの説明

(1) 懇談会の開催趣旨について

市より開催趣旨についての説明。

(2) （仮称）第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（素案）の概要について

(3) 新都市計画マスタープランの策定に向けた取組について

(4) 常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想（素案）の概要について

市より検討状況について，スライドを用いて説明。

3. 意見交換

- ・（市民）資料の内容が多く，重複している部分もあるので。簡潔にしてほしい。
- ・（市民）おしゃれなまちでなければ活性化しないと思う。入札で道の駅の建設業者を選定すると金額の安い業者が選ばれ，建物が味気ないものになるのではないか。若い人が利用したくなるような，おしゃれでかわいいと思ってもらえるような道の駅にしてほしい。
- ・（市民）龍ヶ崎市は交通機関が関東鉄道の 1 社しかなく，県南地区，埼玉県，千葉県と比較して遅れている。牛久市では，バスを利用して通勤ができている。コミュニティバスの改善に取り組んで欲しい。バス会社の問題でもあるが，市から積極的に改善できないかと考えている。
- ・（市民）関東鉄道のバスにまいりゅうのステッカーやラッピングバスを運行できないか。

- ▶ (市長) 道の駅については、龍ヶ崎市の緑が活かされ、デザインに統一感があり、若い世代にも「しゃれてるな」と思ってもらえるように取り組んでいきたい。
 - ▶ (市長) 「総合計画」が「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」に変わった経緯がある中で、「都市計画マスタープラン」の改定時期が統一されていなかった。そのため、今回は同じ時期で見直しを行うことになった。資料の内容が重複するところもあり、作り方については、熟練できていなかったと考えている。
 - ▶ (市長) 公共交通の改善は市民アンケートでもトップ3に入る課題である。今後は市と関東鉄道の協力体制が重要である。例えば、昼間の割引や関東鉄道竜ヶ崎線運行終了後の深夜バスの運行実験等の取組がある。さらに、コミュニティバスの運行やデマンド型乗合タクシーの取組もある。また、今後は自治体間を乗り越えてコミュニティバスの運行について検討を進める予定である。
 - ▶ (市長) 関東鉄道竜ヶ崎線にはラッピング車両があるので、バスでの可能性は高い。
 - ▶ (市長) 道の駅は、安かろう悪かろうになってはならない。道の駅が目的地となり、龍ヶ崎市に來訪してもらえるよになることを目指したい。牛久沼の景観が強みだと思っている。また、名称についても「道の駅〇〇」ではなく、「道の駅龍ヶ崎〇〇」と自治体名を入れるようにしたい。
- ・ (市民) 市の交通網に関して、今後民間バスの運用が維持できるのか疑問である。税金を投入し、バックアップする必要があるのではないか。民間会社との連携や、施策実施へのスピード感がほしい。そのような事例ができれば、その施策自体が龍ヶ崎市の宣伝にもつながるのではないか。
 - ▶ (市長) 今後、県南の自治体間で、新たな路線の考え方について検討を行う予定がある。国交省の運輸局の方も出席するので、情報の収集と共有を行いたい。例えば、都内の民間鉄道会社は自ら路線を引き、周辺の都市開発を行うため利用者が増え、本数を増やし利便性を上げることができている。龍ヶ崎市からもJRや関東鉄道に対して、本数を増やすことでのメリットを伝え、前向きな発想で交渉していきたい。
- ・ (市民) 龍ヶ崎市で教育を受けてきた身として感じることもある。学力向上のために、外国語教育の推進や小中一貫等の方法はあるが、それ以前でつまづいている家庭や子どもが多いと思う。勉強までたどり着かない人への支援も必要ではないか。子ども達それぞれに適した支援の形の検討が必要である。例えば、放課後を利用した教育支援や、少人数指導、NPOからの教育支援等の方法も考えられる。
- ・ さらに、各家庭には、そのような支援があることが伝わっていないと思う。特に若い世代は龍ヶ崎市との関係は、住んでいるだけと捉えており、市政に関心のある人が少ない。広報のためにツイッターやフェイスブックを使うなど、世代ごとのアピール方法があるのではないか。

- (市長) 龍ヶ崎市の教育基本方針については、龍ヶ崎市教育プランの策定に取り組んでいる。具体的な取組では、小学校6年生まで学童保育ができるようになっていく。子どもの貧困問題については、学習支援をNPO等が行なっているが、今後は市としても積極的に協力していきたい。また、勉強に積極的な子どもに関しては、外国語教育のAETの人数を増やす等、充実させていきたい。
 - (市長) 市政運営や、地域コミュニティの取組に興味を持ってもらえるように、シティズンシップ教育を行っていく予定である。自助共助の大切さを学んでもらえればと思っている。
 - (市長) 龍ヶ崎市の広報でのSNSの活用は、進んでいると自負しているが、うまく活用し切れていないと思うところがある。
 - (市長) これからは、家庭教育が重要であると考えている。親と学校と子どもたちと一緒に、教育に取り組む体制作りが必要になってくるだろう。

- ・ (市民) 都市計画マスタープランには、都市環境として自然の豊かさが書かれている。龍ヶ崎市には、都市緑地法の「みどりのマスタープラン」や、「都市交通マスタープラン」も策定されている。それらのプランを一つに統合すると聞いているが、龍ヶ崎が持つ景観の良さを都市計画マスタープランにどのように反映していくのか。団体のヒアリングの中で、龍ヶ崎市農業委員会とJA竜ヶ崎が入っているが、それ以外もあってもいいのではないか。
- ・ (市民) コミュニティバスを安く走らせるだけでなく、イギリスの事例のような、運行に行政が直接関わるような考え方もあるのではないか。
- ・ (市民) 今回の説明会を7回実施したが、参加者が少なく、もったいない。また出席した人には、内容が盛りだくさんで、把握できていない人もいるのではないか。
 - (市長) 太陽光パネルの設置によって景観が損なわれる問題が龍ヶ崎市でも起こっている。それについては、条例制定に向けて動いているところである。個別対応すべきものは、計画の中で書き込んでいく。
 - (市長) 公共交通に関しても同様である。他都市へ通えるまちづくりという考え方が大切だと考えている。市町村境を越えたコミュニティバス、デマンド型タクシー、などの方法がある。
 - (市長) 広報、周知はどのようにしたら良いのか、永遠の課題であるが、反省もしながら、引き続き行っていきたい。口コミをもっと活用したい。

- ・ (市民) 住まいの環境問題についてだが、マフラーを改造したバイクの騒音に悩まされている。
 - (市長) 騒音問題は、竜ヶ崎警察署と協力して取り組んでいきたい。目に余るときは声を届けてもらいたい。